

基本政策Ⅶ いきいきと学び、活動するための環境をつくる

政策目標

市民の主体的な学びの機会を提供し、地域づくりにつながる学びや、学びを通じた出会い（「知縁」）を促進するとともに、地域における生涯学習の担い手を育成していきます。

市民の生涯学習の拠点となる教育文化会館・市民館及び図書館について、市民サービスの向上に向けた取組を進めるとともに、施設の長寿命化や学校施設の有効活用などを推進し、学びの場の充実を図ります。

主な課題

- ①令和3年3月に策定した「今後の市民館・図書館のあり方」を踏まえ、持続可能な社会の実現に向け、「学びと活動を通じたつながりづくり」の役割を果たしながら、「行きたくなる」、「まちに飛び出す」、「地域の“チカラ”を育む」市民館・図書館を目指した取組を進めていく必要があります。
- ②市民による生涯学習や市民活動の場として学校施設を有効に活用するため、校庭や体育館、特別教室を開放して生涯学習活動を推進しており、今後も地域の身近な生涯学習の場として、学校施設の有効活用をさらに促進していくことが求められています。

主な取組成果

- ①図書館については、様々な特集や資料展示による図書資料の紹介、読書普及講演会等のイベント実施、図書館だよりやホームページ等による多様な広報を行うとともに、図書館アプリを活用して図書館利用促進のための取組を推進しました。また、コンテンツの追加等による電子書籍の拡充や、自動車文庫（市内21ポイント）の運行、来館困難者や高齢者、障害者等への支援として対面朗読、郵送貸出サービス、有料（実費）宅配サービスを実施しました。さらに、資料収集を進める一方で保存する資料を精査し除籍を進めましたが、このことによりタイトル数の伸びが小さくなりました。紙資料の貸出冊数については目標を下回りましたが、特集展示や資料を活用したイベントの実施などにより資料貸出につなげる取組を行いました。引き続き、電子図書館も含め市民ニーズを捉えた資料の充実に努め、市民の読書活動を支援します。
- ②学校施設の更なる有効活用に向けて、令和7年度から導入した予約システム等による運用を適宜見直し、改善を図りながら、利用者による相互協力を前提とした仕組みへの移行支援に取り組むとともに、工事中を除く全ての市立小学校で校庭開放を実施しました。幸市民館・図書館の改修については、実施設計を行うとともに、工事期間中の代替機能について調整を進めました。教育文化会館の労働会館との再編整備については、躯体の相違等への対応に伴い供用開始時期を令和9年11月に延期したほか、指定管理者の募集に向け仕様書の作成を進めました。宮前市民館・図書館の鷺沼駅周辺への移転・整備については、実施設計を進めるとともに、管理運営計画の策定に向け、市民意見聴取方法の検討など準備を行いました。中原市民館・高津市民館・橘分館については、指定管理者制度を導入し、多摩市民館・麻生市民館等については指定管理者選定を行いました。

教育改革推進会議における意見内容

- ①市民館では多様な講座や活動が行われている一方で、参加者の確保や情報の届き方に課題があると感じます。デジタル化により関心のある情報には触れやすくなった反面、関心の外にある地域活動の情報は届きにくくなっています。情報を発信するだけでなく、地域の方々にどのように受け取ってもらい、参加につなげるかという視点で、周知方法を工夫する必要があると思います。

今後の取組の方向性

- ①「今後の市民館・図書館のあり方」や「市民館・図書館の管理・運営の考え方」に基づいて、図書館サービスの充実を図ります。また、来館困難者や高齢者、障害者等への支援については、電子書籍のコンテンツ数を継続して協賛企業等の寄附を受けて充実させる等、サービス向上に向けた取組を行います。また、市民館の講座や活動については、地域の方々に関心を持ってもらえるようにホームページやSNSでの情報発信に工夫をしながら、周知に取り組みます。
- ②学校施設開放について、令和7年度からの新たな制度や手続による運用が円滑に行われるよう丁寧に取り組を進め、特別教室等の開放拡大を推進します。また、みんなの校庭プロジェクトや社会教育施設の環境整備、市民館・図書館の改修・移転整備等を通じて、市民の学びや活動の場を確保します。

参考指標

指標名	指標の説明	実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R7年度)
教育文化会館・市民館・分館の社会教育振興事業参加者数	教育文化会館・市民館・分館で実施する各種社会教育事業(学級、集会など、家庭教育振興事業は除く)に参加した人の数 【出典: 川崎市教育委員会調べ】	1.3万人 (R2(2020)年度)	4.1万人	5.6万人	7.2万人	7.7万人	9.2万人以上
社会教育振興事業を通じて新たなつながりが増えた割合	教育文化会館・市民館・分館で実施する各種社会教育事業(学級、集会など、家庭教育振興事業は除く)を通じて新しい知り合いが増えた人の割合 【出典: 事業参加者アンケート】	46.6% (R2(2020)年度)	46.01%	60.73%	60.4%	54.7%	72.0%以上
教育文化会館・市民館・分館施設利用率【第3期から設定】	利用実績のある部屋数(コマ)÷利用可能部屋数(コマ) 【出典: 川崎市教育委員会調べ】	37.8% (R2(2020)年度)	48.7%	50.7%	51.7%	51.2%	57.7%以上
市立図書館図書タイトル数	川崎市立図書館全館の所蔵図書の全タイトル数。所蔵図書の多様性を表す指標 【出典: 川崎市教育委員会調べ】	88万タイトル (R2(2020)年度)	89万タイトル	90万タイトル	90.5万タイトル	90.6万タイトル	93万タイトル以上
図書館の入館者数	川崎市立図書館全館(管開覧所を除く)の入口に設置している図書無断持出防止装置(BDS)による入館者数 【出典: 川崎市教育委員会調べ】	226.4万人 (R2(2020)年度)	327.7万人	317.9万人	336.9万人	334.3万人	439万人以上
図書館における個人への貸し出し冊数【第3期から設定】	市立図書館全館における個人利用者への貸出冊数 【出典: 川崎市教育委員会調べ】	548万冊 (R2(2020)年度)	628万冊	566万冊	573万冊	546万冊	600万冊以上
学校施設開放の利用者数【第3期から設定】	市立学校で実施している施設開放事業の利用者数(体育館・校庭・特別教室の利用者数の合計) 【出典: 川崎市教育委員会調べ】	144.7万人 (R2(2020)年度)	244.9万人	250.0万人	251.2万人	264.5万人	268.1万人以上